

福岡県水道ビジョンの策定に当たって

福岡県は、筑前海、有明海、豊前海のそれぞれ特徴ある3つの海に面し、そこには遠賀川、筑後川、矢部川、山国川などの河川が注ぎ込み、河川の流域には肥沃な平野が広がるなど、豊かな自然に恵まれています。しかしながら、本県は、大きな河川が比較的少なく、人口集積が進んでいることなどから、安全な水を安定的に供給していくことが一つの課題となっています。



このため、本県では、ダム開発を基本としながら、筑後川から福岡都市圏へ導水する「福岡導水」などの広域的導水や海水淡水化施設など、多様な水資源の確保を図るとともに、水道施設の整備を進めてきました。その結果、多くの県民や企業の皆さまが水道による水の供給を受け、今や、水道は、県民の皆さまの生活や社会経済活動を支える基盤として必要不可欠なものとなっています。

また、水道を取り巻く状況は全国的に大きく変化しており、人口減少に伴う水需要の減少、施設の老朽化、深刻化する人材不足などの課題に直面しています。加えて、平成28年熊本地震や平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨などの自然災害が相次いで発生しており、水道は、このような災害に備えることも求められています。

このような状況を踏まえ、このたび、本県水道の理想像を提示し、その目指すべき方向性や執るべき施策などを示した「福岡県水道ビジョン」を策定いたしました。

本県としましては、このビジョンに基づき、水道事業者の皆さまをはじめ、関係の皆さまと連携しながら、水道が直面する課題の解決を図り、県民生活を支える水道の恩恵を次の世代も享受することができるよう取組みを進めてまいりますので、県民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

平成31年 3月

福岡県知事 小川 洋